

2020 年を総括する

NPO 法人歯科医療情報推進機構(iDi)

理事長 鴨井 久一

旧臘、12月に中国、武漢で発症したといわれるコロナ禍に振り回された1年でした。会員の皆様におかれまして如何、お過ごしですか。我々を取り巻く政治・社会環境も、安倍政権から菅政権へと変わり、米国は選挙戦のさなかで共和党トランプ大統領と民主党バイデン元副大統領の争いが泥沼状態になり、米国が唱道する民主主義とはかけ離れた利己的な論戦が行われています。米国が基調とした民主主義が揺らぎ始め、中国、ロシアをはじめとする独裁政治の影響力が強く世界を脅かしている状況です。我が国を取り巻く環境も尖閣湾への中国船の侵入、沖縄の米軍基地の移転問題、憲法改正など多くの問題を残しながら、過ぎ去ろうとしています。

歯科医療情報推進機構では、去る9月6日(日)にiDi歯科学会をコロナ禍の浸延で中止となり、会員の皆様の始め、多くの方々にご迷惑をおかけしました。コロナ禍の延伸で今後の講演の在り方も検討しました。一般的には、在宅テレワーク、オンライン教育、可視化、zoom化などが言われていますが、iDiもこの状況が長く続くようであれば、全国レベルでの可視化、zoom化の方向で検討しているところです。詳細については、専門職のご意見を戴きながら検討を進めてゆきたいと思っています。iDiはこれまで、歯科医療評価機能評価制度、院内感染防止対策、安心安全のインプラント治療の普及、高齢者の嚥下機能、認知症、胃瘻などの対策をメインとして地域包括ケアシステムの構築に取り組んできました。

コロナウイルスの口腔から見た対策・予防として自然免疫としてのNK細胞、サイトカイン、マクロファージ、IgAなどの作用が注目され、粘膜面での機能、口腔健康管理、唾液の作用などが重要視されています。一方、獲得免疫では、不活性ワクチン、自己再生、受動ワクチンなどがあげられています。歯科治療の指針として、歯科医療器具の滅菌消毒、院内感染防御対策として、マスク、外科的手洗い、洗口・含嗽による予防処置、口腔ケアの推進(SPT期による定期的な検査・処置)が重要で、口腔清掃、歯ブラシ磨き方、補助器具の使用(歯間ブラシ、フロス、舌ブラシ等)、唾液腺のマッサージによる免疫機構の亢進(共通粘膜免疫システム)にリゾチーム、ラクトフェリン、ペルオキシダーゼ、免疫調整作用としてのSlgAの作用。ノイラミダーゼやプロテアーゼ産生の抑制に繋がることを証明してきました。また口腔周囲筋のマッサージにより口輪筋、外側翼突筋などの筋肉を活性化し咀嚼・咬合で唾液の分泌を促進・活性化する必要性も示してきました。

近年、口腔から始まる消化器系に腸内有益菌(乳酸桿菌など)を活性化し免疫機能を高めるプロバイオティクスや野菜、海藻や植物繊維を含むオリゴ糖などのプレバイオティクスなどの併用で腸内細菌の活性化が言われています。

コロナウイルスの沈静化し、束縛されない自由なライフスタイルを誰もが望んでいるところですが、そのためには、各人がCOVID-19に対し、予防の観点から、歯科医療の最重要性を訴えるものです。